

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「調べて確かめたことを話そう」 教材名「生活調査隊」

2 単元の目標

話の中心を意識し、声の強弱や間の取り方に注意して話せる。調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話の中心を意識し、声の強弱や間の取り方に注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫している。 (A(1)ア・A(1)ウ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。結果を全て読み上げず、中心が聞き取れるように強弱や間を工夫する。学習指導要領のA(1)ア・A(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

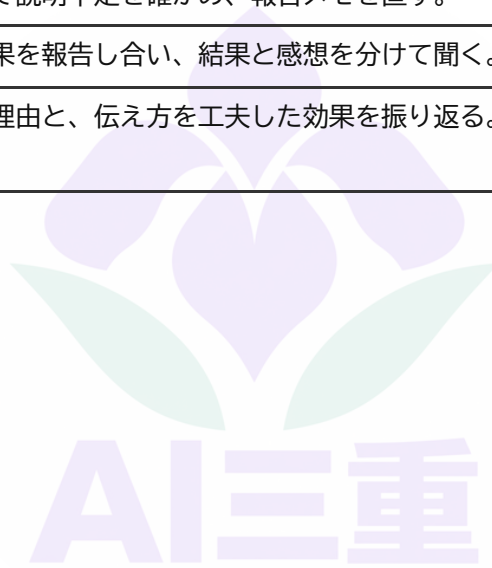
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

調べた相手・方法・問いを記録し、結果と感想を別の欄に書く。集計前に分類の基準をそろえる。私生活や家庭の経済状況など答えにくい調査は避け、回答しない選択を用意する。おおむね満足できる状況は、調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○生活で知りたいことを出し、相手と目的に合う調査の問いを決める。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○質問の意味がそうように調査方法を考え、記録の仕方を確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	3	○調査し、回答を同じ基準で分類・集計する。	学習状況を見て支援する。
	4	○結果を比べ、知らせたい中心と必要な資料を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	5 （本時）	○中心と資料を対応させ、伝わる強弱や間を試しながら報告する。	思①（発言・学習記録）
	6	○聞き手の質問で説明不足を確かめ、報告メモを直す。	学習状況を見て支援する。
	7	○生活調査の結果を報告し合い、結果と感想を分けて聞く。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○中心を選んだ理由と、伝え方を工夫した効果を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」 【めあて】学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・多い少ないを言う前に、何を調べたかが必要だ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」 調査結果を比較・分類し、知らせたい中心とその根拠になる結果を選ぶ。図やメモを使い、中心で声の強さや間を変えて発表を練習する。聞き手が中心を言い返し、意図した内容が伝わったか確かめて、示す結果や話し方を調整する。 〈予想される児童の反応〉 ・多い少ないを言う前に、何を調べたかが必要だ。 ・全部の結果より中心に関係する結果を選びたい。 ・大事な結果の前で間を取ると聞き取りやすい。	調べた相手・方法・問いを記録し、結果と感想を別の欄に書く。集計前に分類の基準をそろえる。私生活や家庭の経済状況など答えにくい調査は避け、回答しない選択を用意する。 想定する難しさ：予想を調査結果として話す。学級での結果を全ての子どもの傾向と言う。数値の読み上げだけになる。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫している。(調査結果の分類メモ・発表練習の観察・話し方の修正)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・大事な結果の前で間を取ると聞き取りやすい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

